

## 大井川流域の未来を考える

本年2回開催された国交省による大井川水系流域委員会の中で当組合は、①奥地のダムで発生する濁水の長期化に対する対策と改善、②下流部の流路複列化に対し安定した流路造成が急務である、この2点について要望しました。

## 昨年のおゆ産卵状況は？

前半は好漁、後半は台風の影響で貧果となった平成29年。晩秋には静岡県内水面漁連により大井川2地点でアユ流下仔魚調査が行われました。

### <目的>

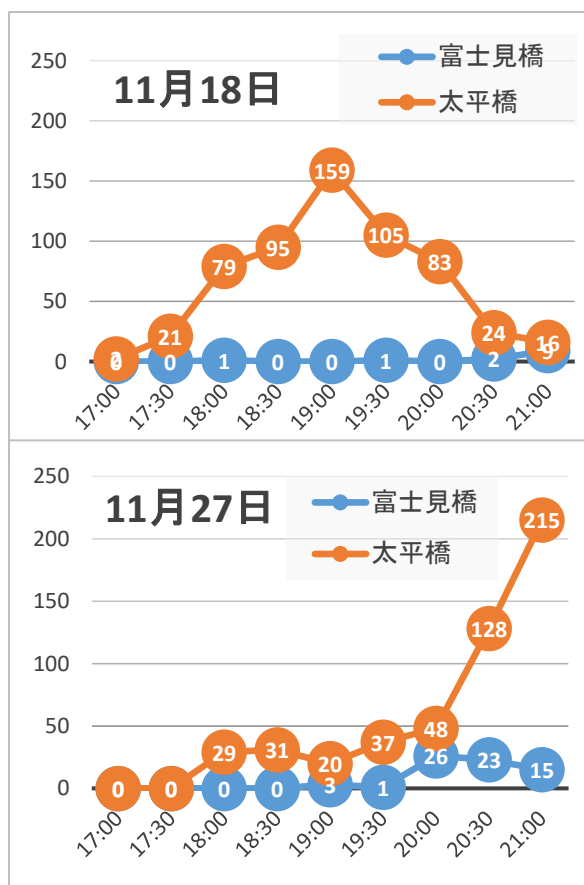
静岡県内水面漁業調整規則第28条に規定された禁止区域とその周辺でのアユ産卵場実態調査

### <方法>

プランクトンネットを用いて流下仔魚を採集し、個体数を計測して産卵状況を調べる。

(17時～21時まで30分間隔で5～10分間採集)

### <流下仔魚の出現割合>



### 「大井川水系流域委員会」とは

魚類、河川、農業水利、植物、防災、河川、生活などを専門とする大学教授や漁業関係者（漁協）などの有識者により、河川整備等の川づくりへの取り組みについて検討する委員会です。

### 県調整規則の禁止区域 (富士見橋上流端まで)



(上) 調査地点①、②  
(左) 採集の様子

### <状況>

#### 11月18日

① 太平橋では17:30には仔魚が出現し単峰型のピークが見られたため、橋のすぐ上流に単独の産卵場があると推測された。

② 富士見橋では約2時間遅れて出現し、21時以降にやや増加傾向であることから、禁漁区域外のかなり上流部に産卵場があると推測された。

#### 11月27日

① 太平橋は18時以降に増加し始めピークは不明だった。② 富士見橋では前回とほぼ同様に19時より出現した。

### <考察>

禁漁区域内を含め、大井川では広範囲に産卵が行われていると思われ、環境に合わせて産卵場が動いていると推察できた。昨年は産卵期に台風による増水があり、変則的に産卵が行われている可能性があるため継続した調査が必要と思われる。

本年も11月～12月にかけ、大井川下流部の流下仔魚調査を実施しています。